

研究所たより 研究所たより

ついに戦争が始まりました。開戦以前から高まる世界中での市民による反戦行動が示す通り、また国連安保理での決議を得られなかったことを言うまでもなく、この戦争にはほとんど何の正当性も見当たりません。確かにフセインは独裁者であり大きな問題があるでしょう。しかしそれをアメリカが一方的に叩くことで、平和をもたらすことができるのか、といえば全く不透明です。

5年前に私がイラクの隣国ヨルダンを旅行したときに、一般の人々と話をして感じたのは、湾岸戦争の敗北にもかかわらず、イラクのフセイン大統領の人気の非常に高いということでした。すでに、今回も中東などのイスラム諸国で反米デモが広がりつつあります。湾岸戦争でサウジアラビアに米軍を駐留させたことが、オサマ・ビン・ラディンとアルカイダの「聖戦」を生み出し、9.11テロの遠因になった、とも言われています。今回の戦争で潜在的な反米国家や反米主義者の数が増えることによって、ますますテロの脅威は高まるような気がします。

日本でもかつてない反戦・平和を求める活動が広がっています。今回の戦争はある意味で「米国の暴走」という分かりやすい構図もあるため、これまで直接的な行動には出なかった多くの人たち、特に若者が自分たちなりの思いや意思で、動き出しています。政党や労働組合は脇役となり、NGOや市民団体が中心となって呼びかけた大きな集会在、年が明けてから東京では3度（1.18、3.8、3.21）行われ、3.21の集会では5万人以上の人たち

が思い思いのスタイルで戦争反対をアピールしました。

近年の市民活動のもうひとつの大きな特徴であるインターネットやメールを駆使したアクションもますます活発になっています。9.11以来、実に多くのニュースや反戦署名を求める文書がeメールによって届いています。私は、残念ながら集会やデモには参加できていませんが、国連安保理や各国首脳、日本政府や国会議員へのアピールや請願に署名しました。一番お手軽な活動方法かもしれませんが、マスコミでは得られない多くの情報を知ることができました。

アメリカのメーリングリスト[workercoop]では、西海岸のいくつかの労働者協同組合が、攻撃開始と同時に抗議のために店を閉めたり、反戦のメッセージを配るなどの活動をするのが呼びかけています。また、積極的な戦争反対署名活動を行っている青山貞一さん（環境総合研究所）によるとアメリカ人のある女性は、開戦の日（3/20）にあわせて、昨年4月にパレスチナのヨルダン川西岸地区ジェニンで起こったイスラエルによる大規模虐殺の写真をWebサイトに公開しました(*)。首から上がなかったり、黒こげになったりしたおびただしい数の遺体の写真で、正直に言うところ、これが戦争の本質であることを如実に語っています。イスラエルは国連やアラブ諸国による徹底調査の要求を拒絶して今日まで来ており、その背後にはアメリカの擁護があったものと思われます。まさにダブルスタ

ンダードなわけです。

協同総研では3月20日の理事会で「イラク攻撃への反対声明」を確認しました(**)。一刻も早くこの戦争を止めさせるために何ができるか、無力感と戦いながら新年度に向けての準備を進めています。

(*) <http://www.ummah.com/inewsletter/massacres/palestine/jenin.htm>

(**) <http://jicr.org/>

(菊地 謙)

協同集会報告集 発売中

協同集会の報告集ができました。すでに会員の皆さんにはお届けしていますが、さらにご希望の方は下記までご連絡下さい。

■協同総合研究所

〒114-0032

東京都北区中十条2-11-6

tel03-5963-5355 fax03-5963-5366

e-mail kyodoken@jicr.org

1部1000円で販売いたします。



いま「協同」を拓く 2002 全国集会 in九州 報告集

いま「協同」を拓く 2002 全国集会 in千葉 報告集

